



令和 4 年 6 月 / 日

午前・午後 9 時 / 分 受領

議長	事務局長	係

No. 1

令和 4 年 6 月 1 日

愛南町議会議長 原田 達也 殿

愛南町議会議員 吉田 茂生

一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

(答弁一括方式 ・ 答弁分割方式)

質 問 の 要 旨	答弁を求める者
<p>2022年4月より『第3次愛南町総合計画』が開始されました。愛南町総合計画は、町の政策を定める最上位の計画であり、町民、事業者及び行政がそれぞれの果たすべき役割と責任を分担して、総合的かつ計画的に町づくりに取り組んでいくための指針となるものです。</p> <p>今回は『第3次愛南町総合計画』の中から、「公共交通の確保」と「防災・減災対策の推進」について一般質問させていただきます。</p> <p>1. 「公共交通の確保」について</p> <p>愛南町では民間業者のバス路線の一部廃止に伴い、2006年から愛南バスの運行をしております。公共交通の維持に努めてきております。今年度からは、町内8路線の運行が始まりました。愛南バスは生活交通の維持が困難な公共交通空白地域等における移動環境を改善するために、地域住民の移動交通手段を確保する手段であります。先月の5月には、新たな高齢ドライバー対策を盛り込んだ改正道路交通法が施行されました。この改正法では、一定の交通違反歴がある75歳以上の運転者を対象に、運転技能検査（実車試験）が義務化され、自動ブレーキなど先進機能を搭載した「安全運転サポート車」の限定免許制度がスタートしました。2025年には“団塊の世代”が全員75歳以上になり、運転免許証を返納される高齢者が増えると予想されます。愛南町のように交通手段の乏しい地域</p>	町長

では、免許返納のハードルが高くなり、愛南バスのようなコミュニティバスの重要性が増大してきます。その一方で、現在運行している地域の高齢者から、コミュニティバス路線の運行状況を把握して改善してほしいとの声が多くあります。生活を維持するために必要な「買物」や「通院」等の利便性が低いと利用率が低下してしまう状況です。地域住民のためにいつまでも持続する公共交通であることが重要であると思います。そこで、愛南バスの現況及び今後の運用等についてお伺い致します。

(1)旧一本松地区の住民から一本松路線の利便性を向上（買い物や通院、通学等）させて欲しいという要望がありますが、愛南バスの現況（乗車率やアンケート結果等）についてお聞かせ下さい。

(2)利便性の向上等による利用者数の増加策について聞かせ下さい。

(3)今後の方針（例えばデマンド型交通の導入等）についてお聞かせ下さい。

2. 防災・減災対策の推進について

町長

歴史記録によれば、過去に南海トラフを震源域とする大地震は、100年～200年毎に繰返し発生しており、684年の白鳳地震から現在までに少なくとも9回ほど発生していると考えられています。次に生じる地震が、いつ、どの範囲でどのような規模で生じるかを予想することは困難ですが、直近に発生した1946年の昭和南海地震から76年が経過しており、南海トラフ全域での地震の発生確率は30年以内に70～80%と言われています。南海トラフ巨大地震は必ず発生すると認識し、様々な備えに取り組んでいくことが必要であると愛南町総合防災マップに記載されています。愛媛県地震被害想定調査によると、南海トラフ巨大地震が発生した際に愛南町で想定される被害として、人的被害（冬深夜）は死者1,300人、建物被害（冬18時）は全壊棟数4,630棟、半壊棟数は2,824棟が想定されています。隣接する宿毛市では、宿毛駅前巨大地震津波避難タワーを建設中であり、津波被害に対する備

えをしております。そこで、愛南町の国土強靱化計画について質問致します。

(1) できるだけ短時間で避難が可能となる避難場所、避難路、避難階段、津波避難タワー、ヘリポート等の避難関連施設の計画的整備についてお聞かせ下さい。

(2) 自主防災組織の活性化及び愛南町全体の避難訓練の実施計画等についてお聞かせ下さい。

(3) 5月2日に『南海トラフ巨大地震』を想定し、輸血用の緊急資機材・災害派遣医療チームをヘリコプターで搬送する訓練がレクザム愛南町工場のヘリポートで実施されました。残念ながら愛南町には常設のヘリポートがありません。防災ヘリ・ドクターヘリの活用も含めてランデブーポイントの一部に離発着場(ヘリポート)の設置を真剣に考える時期だと思いますが、今後の方針についてお聞かせ下さい。